

8月22日(土) 研修講座等概要一覧

研修講座① 10:00~12:00		研修講義室:3007 定員:200
テーマ	アジアの学校心理学と心理カウンセリング—マレーシア・台湾— 亞洲的學校心理學與心理諮商—馬來西亞・台灣—	
講師(所属)	1) 陳如湘(Universiti Teknologi Malaysia) 2) 吳毅宸(諮商心理師) 3) 蔡俞鈞(國立南科實驗高級中學專輔老師) 4) 張家群(臨床心理師)	
指定討論者(所属)	古屋 茂(秦野市教育委員会)	
概要	1) マレーシアの民族・学校文化と学校カウンセリング (馬來西亞的民族與校園文化及校園輔導) 2) 台湾の大学における心理カウンセリングの現状と展望 (台灣的大學心理諮商現況與未來) 3) 台湾の小・中・高校における心理カウンセリングの現状と展望 (台灣的中小學與高中心理諮商現況與未來) 4) 台湾における臨床心理学の現状と将来の展望 (台灣的臨床心理現況與未來)	
研修講座② 10:00~12:00		研修講義室:5008 定員:150
テーマ サブテーマ	子どもの“生きる力”を支える『横浜こどもホスピス〜うみとそらのおうち』 —家族・多職種の協働から考えるウェルビーイング—	
講師(所属)	田川尚登(認定 NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト 代表理事) 塚越美和子(認定 NPO 法人横浜こどもホスピスプロジェクト)	
概要	病気や障害、不安や喪失を抱える子ども、そしてその家族が、安心して「そのままいられる」場は、どのような関わりや工夫によって支えられているのか。事例や語りを通して、子ども一人ひとりの状態を多面的に捉えるアセスメントと、安心と尊重を基盤とした関係性の構築が、心理的安全性やウェルビーイングをどのように支えているのかを考える。学校という日常の場において、専門性を生かしながら人と人をつなぎ、協働を通してウェルビーイングを根づかせていくための視座を共有する機会とする。	
研修講座③ 10:00~12:00 (シンポジウム形式)		研修講義室:5007 定員:260
テーマ サブテーマ	かながわの支援教育 —「心理に強い教員」の養成—	
話題提供者(所属)	田村 順一(学校心理士会神奈川支部) 内山 慶子(神奈川県立総合教育センター) 奥村 美由(逗子市教育研究相談センター)	
指定討論者(所属)	会沢 信彦(文教大学) 水野 治久(大阪教育大学)	
概要	神奈川県では、共生社会の実現に向けて、「支援教育」の理念のもとにインクルーシブ教育を全国に先駆けて推進してきました。とりわけ、その中核を担う「教育相談コーディネーター」の養成においては、文部科学省が進める「心理に強い教員の資質向上プログラム」を先取りする先進的な取り組みを展開しています。しかし、学校現場で	

	は、子どもの教育的ニーズが多様化・複雑化する中、チームとして有機的に機能していくという課題も依然として見られます。本シンポジウムでは、「組織マネジメント」「専門性の協働」「人材育成」という3つの視点から神奈川の実践を紐解き、これからの学校心理士(教員・心理職)に求められる力やチームづくりのあり方について再考します。	
研修講座④ 10:00~12:00		研修講義室:5006 定員:140
テーマ	神経発達症の理解	
講師(所属)	柴田光規(社会福祉法人青い鳥 川崎西部地域療育センター)	
概要	<p>演者が勤務する地域療育センターには18歳までの発達が心配される子どもと保護者が来所する。最近では子どもの5人に1人が来所している計算になる。実は、子どもの発達特性そのものが問題になることは多くない。問題が生じるのは、発達特性を持つ子どもと保護者、その周囲にある社会との関係性がうまくいかない時である。私たちは子どもの特性や周囲との関係性を適切に理解しようと努め、それを子どもや保護者と共有しながら今後の生き方を一緒に考えていきたい。それができると子どもは特性を持ちながら、自分のペースで生き生きと伸びていく。演者が医療・福祉の場で子どもと保護者から教えてもらったことを伝え、今後の皆さんの学校での支援に活かしてもらえれば幸いである。</p> <p>キーワード #神経発達症 #周囲との関係性 #困った行動は子どものSOS</p>	
研修講座⑤ 15:30~17:30 (ワークショップ形式)		研修講義室:3007 定員:180
テーマ	学校ですぐできるSEL	
サブテーマ	-いろいろな授業に活かしてみましよう-	
講師(所属)	渡辺弥生(法政大学)	
講師協力者(所属)	木村愛子(藤沢市立大清水小学校) 斎藤裕介(埼玉県三郷市瑞木小学校) 澤田葉月(法政大学大学院人文科学研究科)	
概要	ソーシャルエモーショナルラーニング(SEL)は、特別なプログラムではなく、日々の授業にそっと息づく身体で言えば"ミネラル"のに値する教育のあり方です。知識の理解や定着だけでなく「楽しい」「難しいけれどももう一度やってみたい」「ワクワクする」といった心の動きを大切にすることで、学びは深まり子どもたちは自ら前に進む力を育てていきます。本ワークショップでは、どの教科にも活かせる具体的な視点と実践を共有します。ぜひ一緒に。	
研修講座⑥ 15:30~17:30		研修講義室:5007 定員:260
テーマ	災害支援について考える	
サブテーマ	-星槎グループ・相双地区における15年間の支援活動-	
講師(所属)	西永 堅(学校法人国際学園 星槎大学) 尾崎達也(学校法人国際学園 星槎国際高校)	
指定討論者(所属)	山谷敬三郎(日本学校心理士会 会長)	
概要	星槎グループは、2011年3月11日東日本大震災の直後から、福島県相馬市、南相馬市等相双地区において、宮澤保夫名誉会長を中心に、東京大学医科学研究所	

	<p>の協力のもと、震災復興支援の活動を行ってきた。相双地区は、地震と津波、さらに、原子力発電所事故の被害にあった地域である。現在でも、南相馬市の小中学校を中心に、心理支援や学習支援を行っている。復興支援は、マイナスからゼロに戻すことが目指されがちであるが、われわれはプラスの成長を目指した支援を目指してきたため、震災後 15 年における持続可能な支援につながったと考えられる。また、子どもの発達、認知発達に合わせた支援を行うことは、震災をどのように認知していくかを支えることであり、さらに、日々の学習支援にもつながっていくと考えられる。合理的かつ持続可能性のある支援の重要性について検討していきたい。</p> <p>キーワード 震災支援 持続可能性 認知発達</p>
研修講座⑦ 15:30～17:30	
研修講義室:5008 定員:150	
<p>テーマ サブテーマ</p>	<p>トラウマインフォームドケア —トラウマからの回復と社会の修復—</p>
<p>講師(所属)</p>	<p>野坂祐子(大阪大学)</p>
<p>概要</p>	<p>長年の臨床活動をもとにトラウマにアプローチするための基礎知識と臨床知見を多くの事例を通して解説していただきます。またトラウマによって傷つき、回復を必要としているのは個人だけでなく社会ではないかという視点も興味深く、トラウマを抱える人だけでなく支援者の力も引き出してくれます。</p> <p>特に今回の研修では、逆境体験を乗り越え、再トラウマを防ぐためのトラウマの知識と見立て、基本的な援助スキルなどを学びます。</p>
研修講座⑧ 15:30～17:30	
研修講義室:5006 定員:140	
<p>テーマ</p>	<p>含攝儒釋道智慧之心理學與心理治療 和訳「儒教・仏教・道教の叡智を統合した心理学と心理療法」</p>
<p>講師(所属)</p>	<p>夏允中(國立高雄師範大學)</p>
<p>指定討論者(所属)</p>	<p>石隈利紀(日本学校心理学会 理事長)</p>
<p>概要</p>	<p>This presentation critiques the tendency of non-Western social sciences to rely on naïve empiricism, either by uncritically applying Western theories or by assuming that theory emerges solely from data accumulation. It highlights Confucianism, Buddhism, and Daoism as sharing a common emphasis on self-cultivation as the foundation of health, happiness, and human fulfillment, rooted in an integrated cultural tradition shaped over two millennia. Because this wisdom does not yet conform to the Western scientific paradigm, the presentation addresses how it can be systematically transformed into a psychology of self-cultivation that guides both empirical research and practice. Drawing on Professor Hwang Kwang-Kuo's multiple philosophical paradigms framework, it proposes a four-stage process—from formal and substantive theory construction to research integration and practical application—aimed at establishing an autonomous, culturally grounded social science that contributes to global human well-being.</p> <p>本発表は、非英米圏の社会科学において見られる、西洋理論の無批判な適用や、データ蓄積のみで理論が生成されるとする素朴な実証主義の限界を問題提起する。その上で、儒教・仏教・道教に共通する「修養」を中心概念とする思想的知恵に着目し、健康・幸福・人間的成長を支えてきた文化的基盤としての意義を明らかにする。儒釈</p>

	道の知は、二千年近くにわたり人々の心理や行動に影響を与えてきたが、西洋科学の枠組みでは十分に理論化されてこなかった。本発表では、黄光国教授の多重哲学的パラダイムを手がかりに、儒釈道文化を基盤とした「修養心理学」の理論構築プロセスを提示する。形式理論・実質理論の構築から、実証研究の統合、実践への応用に至る枠組みを示し、文化的文脈に根ざした自律的な学校心理学の発展と、児童生徒および教職員のウェルビーイングへの貢献を目指す。	
SV 研修 I 10:00~12:00		研修講義室:3008 定員:130
テーマ サブテーマ	アセスメントとケースフォーミュレーション ー認知行動療法を使いこなすためにー	
講師(所属)	下山晴彦(跡見学園女子大学)	
概要	学校教育の分野においては認知行動療法を適切に活用するための方法をテーマとします。特に児童生徒の置かれた状況に即して問題の成り立ちを理解し、それを本人だけでなく、必要に応じて保護者や教員に伝えて柔軟に支援を組み立てていくために必要となるアセスメントとケースフォーミュレーションを解説します。強迫症のケースの映像教材などを活用し、問題理解の実際をイメージできるように工夫をし、認知行動療法のワークなども取り入れて実践的な講義とします。	
SV 研修 II 10:00~12:00		研修講義室:3009 定員:130
テーマ サブテーマ	学校で災害時に命を守る・救うために必要なものは? ー救急・災害医療、防災教育、学校安全の視点からー	
講師(所属)	山崎元靖(神奈川県健康医療局 医務担当部長) 大木聖子(慶應義塾大学環境情報学部)	
概要	災害時は、なによりも命を守る、あるいは命を救う行動が最も重要であることは論を待ちません。学校管理下での地震災害では、児童生徒や教職員に怪我人が出たり、過呼吸や腰が抜けて歩けない状態になったりしています。けが人想定なしの訓練で本当に命が守られるでしょうか。学校で命を守り、救うために必要なものは何か?児童や生徒に身に付けてもらいたいものは何か?DMAT(Disaster Medical Assistance Team:災害派遣医療チーム)の活動をはじめとする災害医療や救急医療の現場の視点、そして災害時のコミュニケーション、防災教育、学校安全の研究者の視点を交えながら、学校心理士スーパーバイザーの皆さんと一緒に考えていきたいと思います。	
SV 研修 III 15:30~17:30		研修講義室:3008 定員:130
テーマ サブテーマ	『やる気』『意欲』と学校心理士の役割 ーモチベーションの心理学ー	
講師(所属)	鹿毛雅治(慶応義塾大学)	
概要	やる気をもって意欲的に取り組む子どもたちの姿は教師の理想であるに違いない。そこで教師たちは子どもたちのやる気や意欲を出させようと、あの手、この手を駆使するが、必ずしもうまくいってわけではない。やる気、意欲は複雑な心理現象だからである。本講座ではやる気や意欲の心理学的なメカニズムについて、モチベーション心理学の理論を紹介し、学校における教育的な関わりのあり方について理解をともに深めていくとともに、学校心理士の役割について考えたい。 キーワード:やる気、意欲、モチベーション	

准学校心理士研修 15:30~17:30		研修講義室:3009 定員:130
前 半	テーマ サブテーマ	聴くということ ー相手の心に目を向け体験を聴くー
	講師(所属)	半田一郎(守谷カウンセリング・リソースポート、茨城県スクールカウンセラー)
	概要	支援の基本は、相手の話をよく聴くことにあります。しかし、話を聴いていると、自分の考えを言いたくなることが多いのではないかと思います。それを我慢して聴くのは誰にとってもつらいものです。実は、話をよく聴こうとして、相手の置かれた状況を聴いていると、自分の考えが自然にわいてくるのです。相手の話を聞けば聞くほど、自分の考えがわいてくるため、それを押さえつけることは大変な作業になります。実は、話を良く聴くためには、状況ではなく相手の心に目を向け、体験を聴こうとすることが重要なのです。そもそも、心理的な支援を行うためには、相手の心に目を向けることは極めて重要なことなのですが、忘れがちなのかもしれません。本講座では、その重要性と具体的な方法をお伝えします。
後 半	テーマ サブテーマ	聴くということ-相手の心に目を向け体験を聴く ーミニミニカウンセリングを体験してみようー
	講師(所属)	田村節子(一般社団法人スクールセーフティネット・リサーチセンター)
	概要	「聴くということ - 相手の心に目を向け体験を聴く」研修は、傾聴の基本を実践的に学ぶためのプログラムです。特に後半の1時間では、初心者の方を対象に、話し手・聴き手・観察者の3つの役割を体験するロールプレイを通じて、「聴く」ことの奥深さを体感します。単なる技法の習得に留まらず、相手の感情や願いに寄り添い、安心・安全な場で自身の体験を分かち合う「姿勢」を育むことを目的としています。具体的な進め方や振り返りのポイント、大切な約束事を確認しながら、参加者全員で「聴く」力を深めていきます。

8月23日(日) 講演会・シンポジウム概要

開会式/基調講演 10:00~12:00	
テーマ	ウェルビーイングの学校創り
講師(所属)	総崎由希(文部科学省生徒指導室 室長)(予定) 星 匡哉(こども家庭庁 企画官)(予定)
指定討論者	石隈 利紀(学校心理士認定運営機構 会長) 山谷敬三郎(日本学校心理士会 会長)
進行	家近早苗(高崎健康福祉大学)
概要	文部科学省は、第4期教育振興基本計画などで、子どものウェルビーイング向上を政策目標に掲げ、さらにその実現のための学校創りについても様々な取り組みを進めようとしている。また、こども家庭庁においても、子どもを「こどもまんなか」に置いたスタンスで、子どもの「安心できる居場所」や子どもが「自己肯定感」を持てるような学校創り、地域や家庭と連携した「開かれた学校づくり」などを指標として、文部科学省と

	協働して取り組みを始めています。今回はこのような取り組みを共有し、ともに「ウェルビーイングの学校創り」について学び考えていきたい。
教育講演 13:00~14:30	
テーマ	学校心理学貢献賞受賞者記念講演 学校心理学を学んで
講師(所属)	上村恵津子(信州大学)
進行	名古屋学(日本学校心理学会 理事)
概要	学校心理学との出会いにより、自身の実践を方向づける多くの手がかりを得ることができました。その中でも特に印象に残っている学びについてお話します。
大会シンポジウム 15:30~17:30	
テーマ	不登校支援
「話題」提供者(所属)	1)「0歳からの不登校未然防止」 岸あずさ(厚木市教育委員会) 2)「横浜プログラム」 蒲地啓子(元帝京大学) 3)「学びの多様化学校の取り組み」 蓮田亮大(星槎大学マイスター)
指定討論者(所属)	総崎由希(文部科学省生徒指導室 室長)(予定) 星 匡哉(こども家庭庁 企画官)(予定) 石隈利紀(東京成徳大学)
進行	岡田守弘(横浜国立大学名誉教授) 芳川玲子(星槎大学大学院)
概要	今や不登校現象は、アジア諸国においても深刻な社会的課題となっている。そのようななか、不登校現象を「個人の問題から社会やシステムの問題」として捉えるようになってきている。このような状況の中で、本シンポジウムにおいては、「厚木市の0歳からの不登校未然防止の取り組み」や「社会情動的な学びに視点をおいた横浜プログラム」、「星槎学園における学びの多様化学校の取り組み」など、国内において今話題となっている取り組みを紹介し、今後の不登校支援の在り方について会場の皆様とともに考えていく機会としたい。